

神奈川ウォーキング 参加H26-11



日時：平成26年10月19日(日) 集合：小田急本厚木駅 9:00 バス9:20発
コース：本厚木駅→半僧坊バス停→^{おぞこ}海底集落→角田大橋→戸倉集落→志田原→^{みまき}三増合戦場の碑【三増合戦まつり】イベント見学→志田峠→^{せいしょうこう}清正光・志田山朝日寺→河川争奪地形→農工大牧場→三等水準点5159→^{せいの}葦尾根バス停・丹沢あんぱん→真名倉坂・真名倉→ひなた橋→愛川繊維会館→半原神社→半原バス停→本厚木駅 18,000歩(伊藤自宅含め22,400歩)
参加者：吉越L【男性群】班長市村・勅使河原・神谷・平石一・高橋文・小野里・青松秀・新谷・山内・宮野・加来・志村・伊藤真 13名
【女性群】班長横田・藤崎・吉越・藤原・深瀬・河野・福士・山川・中川・草野・高木・中村ゆ・小島ま 13名 合計26名

関東ふれあいの道・神奈川県コースも今日を入れて2コースになりました。三浦半島から湘南海岸を通り、大磯から北上して丹沢山麓、峰の薬師から津久井湖へ、次回11/15(土)NO.14【峠の薬師への道】で終わり、次は東京都へ入ります。今回はNO17【北条武田合戦場のみち】16,2kmの後半を歩きます。

2013/11/24(日)前半を終了しております。1569年小田原城と津久井城を構える北条の懐、「三増峠」に武田信玄が乗り込んで勝利した「三増合戦祭」ですが、武田軍約900、北条軍約3,200の兵が戦死し、その悲しい伝えも残る里路を歩きます。天気は最高で、10/11(土)~13(月)熊野・伊勢路、台風を抑えながら歩いた後ですが、歴史を味わいながら秋を味わい歩きました。

【NO. 17 北条武田合戦場の道】後半 「半僧坊バス停～葦尾根バス停」更に半原バス停まで歩く（点線）。
 「半僧坊バス停」→「葦尾根バス停・丹沢あんぱん」→「半原バス停」約12km

本厚木駅集合9：00、「厚01」のバス9：20発に乗る。先発隊は先のバスで行き、後続隊は全員座れました。半僧坊バス停に到着すると近くの【田代半僧曹洞宗 勝楽寺】に行き、先発隊と合流。以前来たことのある大きなお寺です。



吉越Lのコース説明。

女性軍班長横田さん

男性軍班長市村さん



「関東ふれあいの道」看板です。

おそこ 海底集落を通り、中津川下流を角田大橋で渡る。日差しが強くて・・・



みまき三増まで1, 1kmです。



スカーフの頭巻、ペアーでよくお似合いです。次ページに登場します……。隣清川村は「清川c c」ゴルフでよく来ます。中津川とその支流小鮎川の鮎は美味しい。

樹林の日陰歩きはやはり気持ちいいですね！柿とスカーフを頭に巻いた超近代的マネキンカカシ、美人でした。



ウォークマンを癒してくれます。

【北条武田合戦場】 到着 11:10 ~ 12:20 昼食 6,400歩 「三増合戦まつり」 最中でした。



お祭り真っ先に覗いたのは「中津川鮎塩焼きコーナー」 団体注文@400のところ@300 流石KWC熟女連



一般席座に腰かけ戴きました。焼きたては美味しい！本人の体調に相談し判断で泡の・・・鮎更に美味しく。 地元愛川町出店、安い。↓@100の大きな里芋、色鮮やかな手作り草履 三味線の唄に合わせて剣舞



祭会場は舞台装置付きでその前広場は武術や馬術ができるように空けてあり その前に招待席や一般席の観覧席が設けられている。左の写真は12時の舞台、次のプログラム開始は12:30からということで当初予定を早めに切り上げウォーキングへ。プログラムを見ると10時から和太鼓・出陣式と帰陣式（三献の儀）木曾馬演技・モーターパラグライダー（お子様に空からプレゼント）等があり、15時までのようです。

三増合戦のあらまし

永禄十二(一五六九)年十月、甲斐(今の山梨県)の武田信玄は、二万の将兵をしたがえて、小田原城の北条氏康らを攻め、その帰り道に三増峠をえらんだ。

これを察した氏康は、息子の氏照、氏邦、娘の夫綱成らを初めとする二万の将兵で三増峠で迎え討つことにした。ところが、武田軍の近づくのをみた北条軍は、半原の台地上に移り態勢をととのえようとした。

信玄は、その間に三増峠のふもと補尻の高地に自分から進み出て、その左右に有力な将兵を手配りし、家来の小幡信定を津久井の長竹へ行かせて、津久井城にいる北条方の動きを押しさえ、また、山県昌景の一隊を韮尾根に置いて、いつでも参戦できるようにした。北条方は、それに方々から攻めかけたのでたちまち激戦となった。そのとき、山県の一隊は志田峠を越え、北条軍の後ろから挟み討ちをかけたので、北条軍は総崩れとなって負けてしまった。この合戦中、武田方の大将浅利信種は、北条軍の鉄砲にうたれて戦死した。

北条氏康、氏政の親子は、助けの兵を連れて荻野まで駆けつけてきたが、すでに味方が負けてしまったことを知り、空しく帰っていった。

信玄は、勝ち戦となるや、すぐ兵をまとめ、反畑(今の相模湖町)まで引き揚げ、勝利を祝うとともに、敵味方の戦死者の霊をなぐさめる式をとりおこない、甲府へ引きあげたという。

平成二年三月 愛川町教育委員会

三増古戦場	
戦争:戦国時代(日本)	
年月日:1569年10月8日 ^[1]	
場所:神奈川県愛甲郡愛川町の三増周辺	
結果:武田軍の勝利	
交戦勢力	
◆武田軍	▲北条軍
指揮官	
武田信玄	北条氏照 北条氏邦
戦力	
20,000	6,000~20,000(諸説あり)
損害	
1,000余(北条五代記)	2,000余(諏訪家文書、武田信玄書状) 3,269(甲陽軍鑑)

参戦武将 [編集]

	武将	武将
武田軍	武田信玄	北条氏照
	武田勝頼	北条氏邦
	武田信廉	北条綱成
	山県昌景	北条氏忠
	内藤昌豊	北条軍 高城蔵人
	馬場信春	原胤栄
	浅利信種	上田朝直
	小幡憲重	
	曾根昌世	



愛甲郡愛川町三増の周辺には、人骨や六道銭が発掘され首塚などがある。東名厚木 c c には「信玄の本陣旗立松」の碑がある。

三増・中・志田の三峠があり中峠が一番高い峠で、現在の東名厚木 c c に旗立松があったようです。平成23年2月19日(土)山岡先生の「相川田代から志田峠を越えて、地形見聞」、吉越Lで東名厚木 c c の中に入って「武田信玄旗立松碑」を見て、今から行く志田峠に、桜並木を通ったの思い出しました。流石に眼下の眺望は良く、北条軍の動きをとらえることが出来たと思います。



(次ページの三増周辺航空写真図を参照下さい)

【三増周辺航空写真図】 志田山朝日寺 志田峠埋め立て場 東名厚木 c c 旗立松・合戦場碑（祭会場）



分岐点左折



志田峠残土埋立反対（愛川町側）



給水塔傍の桜並木通り



樹林の登り坂道



右側に東名厚木 c c 入口で、「三増合戦武田信玄旗立松」の看板



【志田峠】13:10 310mh の標識と小さな馬頭観音があります。

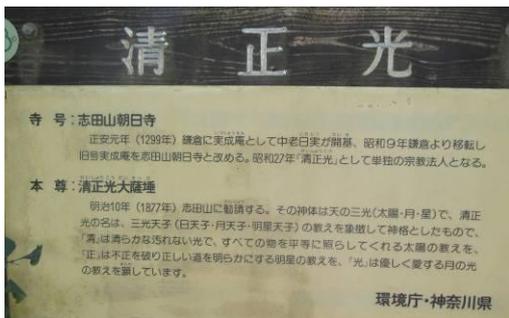


↓問題の埋立地、以前より相当高く、谷が埋められていました。愛川町は相模原市と隣接している。朝日寺に向かいます。車道勿論下りです。



この埋立地が豪雨で土砂災害にならうように！途中の「残土埋立反対」昨今の被害状況、理解されます。

せいしやうこう
【清正光・朝日寺】 急石段214段?を上ると、今回も犬が大歓迎の吠えでお迎え。前回は2匹でしたが・・・。



お堂の前広場の庭には苔の中にリンドウが沢山咲いていました。ここから更に石段登り。頂上はお墓でした。



精鋭頂上制覇組で集合写真↓ 伊藤も証拠写真をYさんに撮って戴きました。こちらの方、御顔がよく見えます。



中庭の花、苔の椅子? 風情があります。石段を降りるとき住職さんにお会いしてお話しました。



東京農工大牧場です

深紅のダリア? 老いてもハートが燃えます!



のどかな田園里路を
 秋を味わいながら
 おしゃべりしながら
 気持ちよく・・・

枝豆が大豆になりました？もうアフターも近い



その前に熟女連「丹沢あんぱん」、熟男連も愛妻に！



14:10 16,000歩 ここからバスに乗らず真名倉坂・ひなた橋を渡り半原バス停に向かいます。



14:50のバスに滑り込みセーフでした。本厚木駅行きつけの地下1階お店開店10分前階段ひな壇で休憩開店待ち。有志12名でアフターウォークでした。若い熟女連Yさんと新人のNさんモテモテで、盛り上がり明るく楽しく、今日を締めくくりました。皆さん有難うございました。

18,000歩

【番外編】鎌倉「まんだら堂やぐら群」



開放日少ない中、10/20(月)ぶらり鎌倉で衣張山から名越切通しの途中行って来ました。初めて柵内に入り説明付で高台からも見ました。しだれ桜や銀杏の見頃最高と思います。開放日を調べて参考まで。

編集後記：ほぼ2回目のコースで、半原バス停はおなじみのところでしたが、好天に恵まれ、スポーツの秋最高のウォーキングでした。アフターも健康的な時間に自宅に帰れ、お風呂に入り、「黒田官兵衛」を見ることができました。今日の「三増合戦」戦国時代豊臣秀吉天下統一から徳川家康に政権交代の物語です。文中少々戦国時代歴史物語の学習記載が多すぎましたことお許しを。10/11(土)~13(月)熊野古道・伊勢路2泊3日ウォークレポートを4編に纏めて、休む暇もなく、10月は行事が集中する月ですが、秋はやはり家に閉じこもるより外に出ましよう。関東ふれあひも後11/15(土)NO.14【峠の薬師への道】だけになりました。お互い頑張りましよう！

いつもの拙いボケ防止用の日記帳「メモ&写真」です。誤記や失礼な記述があるかと思いますが悪しからずお許しの程。